

島根の多彩な医師の働き方
キャリアを支援します！

えんネット

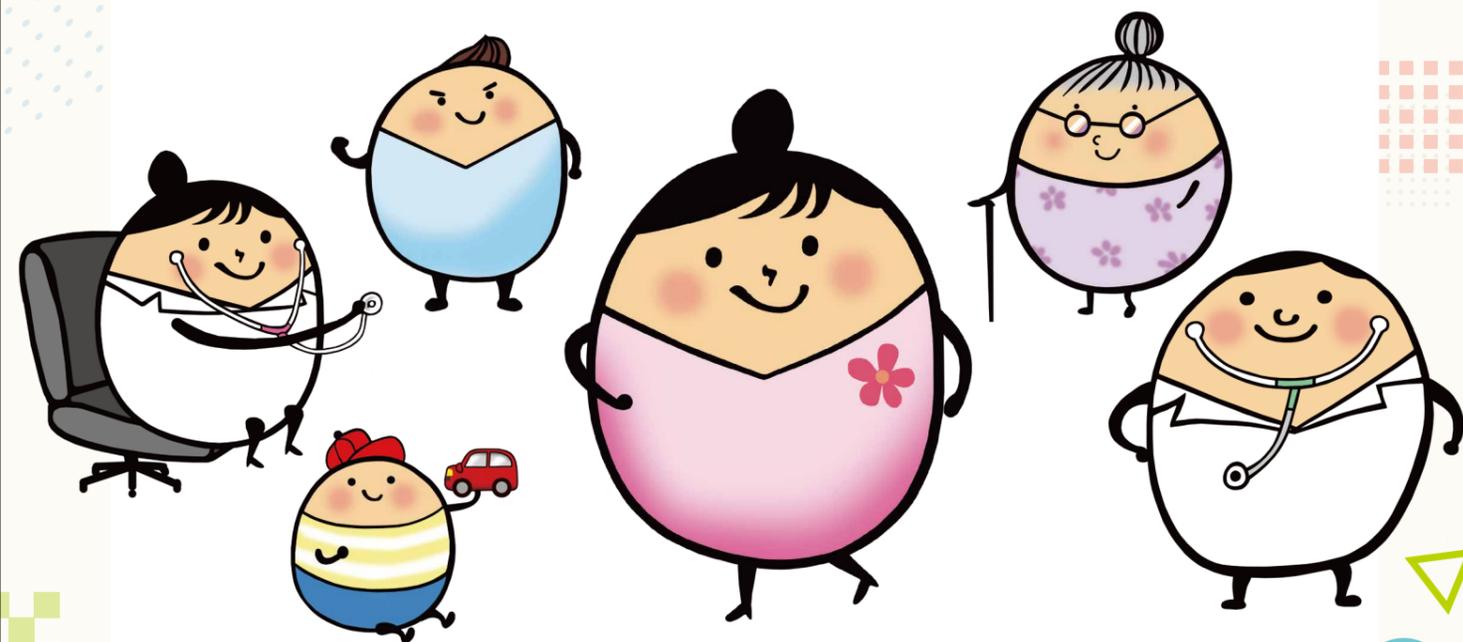
Support Magazine 2020 No.07

Special Discussion

女性医師も活躍中！

“島根県央で地域医療を支える医師たち”

大田市立病院



発行元

島根大学医学部地域医療支援学講座

島根県・しまね地域医療支援センターから財政支援を受けています。

PICK UP

イベントなど“えんネット”の取り組み紹介

●男女共同参画講義

医学生のうちから、ワークライフバランス・キャリア形成について考えることを目的に平成26年度から臨床実習入門として男女共同参画講義を行っています。

2019年には広島大学医学部附属医学教育センター教授 蓮沼直子先生をお招きし、医学部4年生を対象に行いました。

地域医療支援学講座は、学生たちがキャリアを大切に働き続けるために、「えんネット」の取り組みや支援内容についても周知します。

●ワークライフバランスセミナー

株式会社Woman's代表取締役の宮崎結花氏を講師に「ワークライフバランスの実現による幸せなキャリア形成」と題してお話しいただきました。

●えんネット交流会

女性医師や医学生が集まり、働き方などについて楽しく話し合いました。

●復職支援

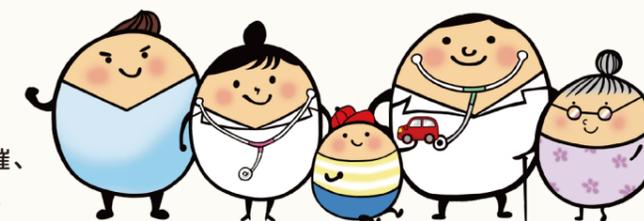
ライフイベント、退職後の相談も受け付けています。



えんネット交流会

えんネット

えんネットではキャリア支援から託児付きセミナーの開催、学生教育までさまざまな支援を積極的に行っています。



キャリア支援
両立支援

- 相談窓口
- 就労環境改善の取り組み
- 託児付きセミナー
- 交流会 など

育児・介護支援
情報提供

- 県内病院就労支援
- 県内自治体保育支援
- 支援情報へのリンク

学生教育

- キャリアモデル実習
- キャリア教育
- ランチョンセミナー

<https://www.en-net.jp/>

えんネット

検索

連携団体

- しまね地域医療支援センター
- 島根大学 ダイバーシティ推進室
- 島根県 赤ひげバンク
- 島根大学医学部附属病院
- 島根県医師会
- ワークライフバランス支援室

えんネット 島根大学医学部地域医療支援学講座内

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

TEL & FAX : 0853-20-2396 E-mail : en-net@med.shimane-u.ac.jp



発行 / えんネット
2020年12月

佐野：今回は、島根県央の医療圏を支える大田市立病院の先生たちにお集まりいただきました。川上先生と松村先生は、今年からこちらに赴任されたそうですね。

川上：私は4月から勤め始めて、ここでの診療はまだ4カ月ほど。大田市は高齢者が多い地域ですが、ご高齢でも一人暮らしをされていて、元気な方が多い印象です。ご家族との関係性も良くて、「昔ながらの家族の在り方」が残っているなど感じます。

松村：私は7月に赴任したのですが、もともと研修先として選んだのが大田市立病院でした。当時、小児科部長だった榎野恭久先生（現・名誉院長）に憧れて、どうしてもここで研修したいと思ったのです。

佐野：佐藤先生と向田先生は出産・育児を経て、今年大田市立病院に異動されたんですね。

佐藤：私は2年前にここに2年間勤めていて、子どもを出産してから戻ってきました。以前は女性の先生はほとんどいなかったのですが、今はとても増えて活気がありますよね。

向田：私も佐藤先生と同じタイミングで働いていて、4月に復職したのですが、育児をしながらでもとても働きやすい環境です。

佐藤：本当にそう。妊娠中も同じ産婦人科の榎原先生や松岡先生が気遣ってくださって、改めてすごくいい病院だなと思いました。

佐野：川上先生は、10年振りの整形外科の常勤医として赴任されたそうですね。とても喜ばれたのでは？

川上：そうですね。広報誌のトップページで取り上げてもらったり、大田市長のところにご挨拶に行ったり。それだけこの地域の皆さんが整形外科医を必要とされていたのだと思うと、嬉しい反面、プレッシャーもあります。でもその期待に応えられるような医療体制を作っていくかと思っています。

榎原：整形外科の先生がいると、救急の受け入れも変わります。だから、その存在感は大きいよね。

松村：私が当直している時、夜中に転倒して大腿骨を折った患者さんが来たのですが、その方は「できればここで処置をお願いしたい」とおっしゃっていました。

川上：そう言っていただけだと嬉しいです。ここにきて最初に手術をした患者さんは、「私が一号だよ！」って、今でも言ってくださるのです（笑）。

榎原：先生一人で手術をしているんだよね。

川上：はい。看護師さんが手伝ってくれます。その第一号の患者さんは、以前、大腿骨の転子部骨折をした時に、出雲の病院に2カ月ほど入院していた

そうなのですが、ご家族はお見舞いに通うのが大変だったようです。今回、ここで手術ができたのでご本人はもちろん、ご家族にもとても喜ばれました。

地域に密着した病院として患者に寄り添う医療を

佐野：周産期医療でも重要な役割を果たしていらっしゃいます。

松岡：私はここに来て4年になりますが、その責任の重さは感じています。他の産婦人科の先生たちともよく話すのが、「妊婦さん、赤ちゃんだけでなく、そのご家族の生活も引き受ける気持ちでお産に臨もう」と。

榎原：お産はそもそも危険が伴うものですが、最近では安全なのが当たり前になりつつあるので、医師はそれだけ覚悟が求められています。

佐野：患者さんたちとの関係性はいかがですか？

松岡：とても距離感が近いですね。患者さんたちのバックグラウンドも分かっていた状態で診察をします。それが楽しいですし、日々新しい発見がありますね。

佐野：急性期病院でありながら、患者さんとの関わりが深い、地域に密着した医療を両立されているんですね。

松岡：はい。出産後に別のことで相談にいらっしやる方も多くて、時には街中で声をかけられることも。産婦人科は



女性医師も活躍中！

Special Discussion

“島根県央で地域医療を支える医師たち”

大田市立病院

今回取材したのは、2020年5月にリニューアルオープンし、とてもきれいな大田市立病院。院内には、島根大学医学部のサテライトキャンパスである「大田総合医育成センター」が設置され、これからの地域医療を支える総合診療医の育成にも力を入られています。ここ数年で女性医師が増え、病院は明るく活気にあふれています。そんな病院で働く先生たちに、その働きやすさの理由や地域のニーズに応える診療について語っていただきました！

座談会のファシリテーター

島根大学医学部
地域医療支援学講座 教授

佐野 千晶

さの ちあき
島根医科大学（平成6年）卒業、微生物学などを経て現職。2児の母。「えんネット」相談窓口を担当。
ワークライフバランスに関する調査研究、復職支援、女性医師支援などを行う。



島根大学医学部
地域医療支援学講座 助教

堀田 優希江

ほった ゆきえ
島根大学医学部（平成21年）卒業、島根大学の耳鼻咽喉科での勤務を経て令和2年から現職。3児の母。



大田市立病院 院長

専門：麻酔科
平成25年4月1日より院長

西尾 祐二 先生

にしお ゆうじ
大田圏域の医療ニーズに応え、人材育成に尽力。新病院を強く牽引されている。





新型コロナウイルス感染症の流行で、いつもとは違う緊張感が強い医療現場。そんな中でも医師たちは明るく真摯に、患者と向き合う日々を送っています。

忙しい診療科ですが、その分やりがいがある。赤ちゃんが無事に産まれて、元気に泣き声をあげているのを聞くと、それだけでエネルギーをもらえるのです。

佐野：総合診療医の育成にも力を入れていらっしゃると思いますが、向田先生は地域のニーズをどのように感じていますか？

向田：高齢の患者さんでいくつも病気を抱えている方の診療をすることも多く、幅広い疾患を扱う総合診療科のニーズはすごくあると思います。私自身患者さんが退院した後の医療についても研修を受けているので、病院内だけの視点ではなく、患者さんの人生に寄り添うような診療を心がけています。

佐野：地域医療を支える病院だからこそ、総合診療医がしっかりと活躍できるのですか。

向田：はい。急性期で入院してきた患者さんでも、その病気を治して終わりではなく、例えば持病の糖尿病や高血圧の薬についても診てあげる。そうやって患者さんの複数のプロブレムに関われるのも、総合診療科の良さだと思います。

周囲のサポートで子育て中でも働きやすい

佐野：診療をされていて、女性医師として印象に残ることはありますか？

川上：女性だからというわけではない

経験を積みながら自主的に学べる研修

堀田：研修医の受け入れもされていますよね。

向田：今年は4人の研修医が来てくれたのですが、研修が充実しているのは雰囲気を見れば分かります。キラキラしていますよ(笑)。

松村：それは感じますね。全科当直の時に研修2年目の先生と一緒にやったのですが、2年目でここまでできるようになるんだと、成長ぶりに驚きました。

佐藤：産婦人科の研修では、手術もできますし、外来も担当できます。私もここで後期研修中に専門医を取得しましたが、そうした教育もしっかりしているので、ぜひ若い先生たちに来てもら



のですが、子育ての経験が診療に活かせることはあります。整形外科だと、ギブスカット一つでも泣いたり暴れたりする子どもがいますが、そんな時に「プリキュア知ってる？」と話しかけながら処置をします。

松村：私は小児科なので、子どもがあまり泣かないようにと、わざわざ女性医師を選んで来てくださる親御さんがいますね。「今日初めての病院でも泣きませんでした」と言われることもあって、そんな時は「よし！」って(笑)。

佐野：逆に女性ということで苦労されたことは？

川上：私が医師になりたての頃は、整形外科には男性医師しかいなかったのでもなかなか言い出せず……。でも思い切って上司に相談すると、手術の日程をずらしてくれるようになりました。

佐野：自分の体のことはつい後回しにしてしまいがちですが、相談に

いたいです。

横原：研修医には妊婦さんのエコーも担当してもらっています。

佐藤：大きな病院では研修医がなかなか経験できないようなことも、ここでは積極的にさせてもらえますよね。エコーで初めて赤ちゃんの心臓を見た先生は、皆さんすごく感動しています。

堀田：研修の段階から医師としてのやりがいを感じられそうですね。

佐藤：そうですね。やりがいを感じるからこそ、もっと成長したいと思える。だから指導する時には、できるだけいろいろな経験をしてもらおうようにしています。それとコメディカルの方たちがすごく優しいのもこの病院の特徴です。

向田：内科の研修では、救急当番で受けた患者さんはどんな症例でも、受けた研修医が主治医になります。例えば胃潰瘍の患者さんであれば、内視鏡カメラの手法など、できないことは診療科の先生に頼みますが、それ以外の管理については研修医が診ます。

堀田：主治医になれるのは貴重な経験ですね。

向田：はい。診療科の先生とコミュニケーションをとりながら、責任をもって患者さんを診ていく。しかも一つの診療科の疾患だけでなく、脳梗塞も消化管出血も肺炎も糖尿病も……。一年を通してさまざまな病気を診ることができます。

乗ってくれる上級医がいれば働きやすそうですね。

川上：今は整形外科の常勤医が私一人なので、「ちょっと休みたいから代わって」と言えない環境ですが、いざという時には院長が「入院の患者さんは僕が診るから」と。そうしたサポートがありがたいです。

佐野：佐藤先生と向田先生は、妊娠・出産・育児とライフスタイルの変化にどのように対応されましたか？

佐藤：一人目を出産した時は、大田市立病院の院内保育に子どもをあずけて、診療の途中で3時間おきに授乳をしに行っていました。子育てをしながら働けたのが良かったです。

川上：院内保育があると絶対にいいですね。私は復職する時に子どもをあずけるところがなくて、すごく大変でした。

佐藤：今は子どもが少し大きくなってきたので、家の近くの保育園にあずけて、私は時々ですが夜勤にも入っています。同じ科の先生たちにはいつも配慮してもらっているので、少しでもその負担を軽減できたらな。

向田：私の場合は、ちょうど佐藤先生が産休から復帰されて働く姿を見ていたので、自分が育児しているところも想像しやすかったですね。実際に妊娠中や復帰してから、周りの先生たちがサポートしてくれて、勤務中にも「大丈夫か？」とよく声をかけてくださいます。

堀田：長期間にわたって患者さんを診られるのもメリットですね。

向田：診療科ごとのローテーションだと、数カ月で他の診療科に移らなければなりません。ここでは同じ時期にいくつもの診療科の患者さんを担当するので、総合的な力を身につけることができます。

川上：整形外科では、ケガなどの救急対応が多いので、その時しか診られない症例を扱うことがあります。だから研修医の先生には、積極的に手術にも入って、経験を積んでもらいたいな。

堀田：研修期間で学べるのがたくさんありそうですね。

川上：そうですね。当院は診療科も充実していますから、興味があれば自分でどんな学べると思います。内科の研修中でも、「午後から手術を見学したい」と言えば、それができます。

向田：自由にできるからこそ、私たちも研修医から刺激を受けて一緒に成長していけるのではないかと思います。

機能が充実した新病院で医師同士が協力し合う

堀田：今回新しくなった病院に初めて伺いましたが、療養生活を送るには素晴らしい環境ですね。

川上：整形外科で使う機器も新しくなりましたし、手術室も機能的で使いやすいです。

地域に密着した病院で「長く働く良さ」を感じています！

副院長、医療局長、産婦人科上席部長
横原 研 先生
まきはら けん
島根医科大学(昭和61年卒)

地域の医師たちとも連携をとり、予防に取り組んでいきたいです！

整形外科部長
川上 敦樹 先生
かわかみ あつき
島根大学(平成10年卒)

患者さんのご家族、生活背景も分かった状態で診察に取り組んでいます！

産婦人科部長
松岡 さおり 先生
まつおか さおり
島根医科大学(平成5年卒)

院内保育を活用し子育てをしながら働けたのが良かったです。

産婦人科医長
佐藤 絵美 先生
さとう えみ
自治医科大学(平成23年卒)

女性ラウンジがあるので体調によって休むことができ、女性にやさしい病院です！

小児科医長
松村 美咲 先生
まつむら みさき
島根大学(平成23年卒)

多くの患者さん・症例を診られるので、研修医にとって総合的な力を身につけられる病院です。

総合診療科医長
向田 千夏 先生
むかいた ちなつ
島根大学(平成26年卒)

えんネット

について



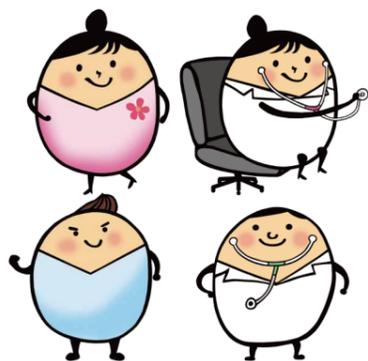
しまね地域医療支援センターの委託を受け、平成26年度より、島根大学医学部地域医療支援学講座内に両立支援のための相談窓口『えんネット』が設立されました。

出産・育児・介護などのライフイベントで働き方に悩みを抱えている方々がキャリアを継続できるよう支援いたします。

また、「働き続けたい」という意識を育てるために、学生時代からのキャリア教育や、すべての医師の働きやすい職場をめざした、就労環境支援、託児などに考慮した両立支援を行っていきます。

相談窓口

えんネットでは、現在の働き方に悩みを抱える方のための相談窓口を設置しております。個々に応じた復職への相談も受け付けております。専門科に応じた対応が必要な場合は、支援担当員としてご協力いただく、専門科の先生に相談することも可能です。また、復職相談については学内外と連携をとりながら、段階的な支援を行っています。加えて、女子学生の女性特有の相談に対しても、女性スタッフが対応しています。どんなことでもお気軽に相談してください。



セミナーなどに託児をつけます

子育て中の医師も学びやすいよう、セミナーなどに託児をつける支援を行っています。また、島根大学医学部附属病院クリニカルスキルアップセンターにてシミュレーショントレーニングの託児付受講もできます。



医師密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師のもとで実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習です。実習では、医師の一日の始まりから終わりまで密着し、仕事以外の保育園の送迎や家事などの生活場面についても見学させていただきます。参加した学生さんからは「先生の結婚・出産の頃のお話も伺い、やりたいことをあきらめずに継続されている強さに自分も勇気ができました」といった意見がありました。



松岡：産婦人科では、リラクセスしてお産ができるようにLDRを導入しました。新たに出産後の母子同室も始めたのですが、そこでは患者さんの様子を見ながら、休ませてあげた方がいいお母さんはこちらで赤ちゃんをあずかるなど、臨機応変に対応しています。

川上：あとは女性ラウンジもいいですね。更衣スペースや仮眠スペースがあるので便利なんです。

松村：授乳をした時とか、生理でしんどい時に休むこともできますから、女性には嬉しいですね。

向田：いつもお菓子が置いてあって、ついつい女子トークが弾みます(笑)。

佐野：とても仲が良さそうな雰囲気伝わってきます。普段の診療でも協力し合う場面はありますか？

松岡：つい最近、帝王切開に川上先生が入ってくださったのです！

佐野：整形外科の先生が産婦人科の手伝いに入るのは、他では見られない状況ですね。

川上：たまたま手術がない週があつて、それを松岡先生に言ったら「帝王切開があるよ」って。見学に入ったつもりが、普通に手洗いをしてサポートしてました(笑)。

松岡：それから産婦人科としては、小児科の先生にいつもお世話になってます。帝王切開に立ち会ってもらえませんが、普通分娩でも何かあればすぐに来てくださいます。

松村：こちらとしてもリスクを前もって教えていただけるので、とても助かります。

医療課題に取り組み、「この地で長く働きたい」

佐野：大田市にいらしたばかりの川上先生と松村先生は、今後、この地域で実現させたい医療など目標はありますか？

川上：これまで常勤医がいなかったこ

とで、骨粗しょう症の治療が十分ではなかったため、今後は地域のかかりつけの医師たちとも連携をとりながら、予防に取り組みたいと考えています。

松村：私はもともと発達障害が専門分野なので、気軽にご相談していただけるようにしていきたいです。健診時だけではカバーできずに、保健師さんも困っているようなので。

佐野：地域の医療課題として、これまで足りなかったところに取り組まれるのですね。

横原：お二人にはぜひ頑張ってもらいたいですが、私は当院に勤務してもう20年近くになりますが、産婦人科医としてかつて自分がとりあげた子どもが、大きくなってまた来てくれるなど、地域に密着した病院で長く働く良さを感じています。

川上：私も若い頃はいろいろな病院で経験を積みたいという思いがありましたが、今は地域に根差した診療をするのが楽しいです。カルテを診なくても患者さんのことに加えて、ご家族や生活、困っていることが分かる関係性になっていけたらと。ここでそんな医療を目指していきたいですね。

佐野：今回、お話を伺って、先生たちがお互いを支え合いながら診療をされている様子や、長く働き続けたいと思える病院の魅力が伝わってきました。どうもありがとうございました！

えんネット × 大田市立病院 HOSPITAL DATA



〒694-0063 島根県大田市大田町吉永1428-3
TEL: 0854-82-0330 FAX: 0854-84-7749
E-mail: kensyuu@ohda-hp.ohda.shimane.jp
http://www.ohda-hp.ohda.shimane.jp/

1 2 3 4 5

1. 新病院外観
2. 保育所
3. 外来受付 (ブロック受付)
4. 手術室
5. 3T (テスラ) MRI